

# 茗溪



## 特集

- I 地域医療を進める
- II 「江戸ッ子の気づかい」に学ぶ

グラビア	01
特集 I 地域医療を進める	02～07
特集 II 「江戸ッ子の気づかい」に学ぶ	08～12
第20回国際生物化学オリンピック	
(IBO2009つくば)の成功への軌跡	13～14
茗溪学園だより	15
支部組織表	16～17
桐の葉のつどい	18～19
著書紹介	19
季刊誌「茗溪」などを確実にお届けしたい	20
追悼録	21
第14回茗溪・筑波グランドフェスティバルの	
本部だより	22
編集後記	22

meikei

秋  
2009  
No.1063

ご案内 21



県南病院  
院長 塚田篤郎



池袋病院  
院長 池袋賢一



筑波大学  
教授 前野哲博



筑波大学附属病院  
教授 渡辺重行

## 地域医療を進める

(P. 2 ~ P. 7 参照)

## 第20回 国際生物学 オリンピック

(P.13~P.14参照)



江戸名所図絵から

現代人の規範として、江戸っ子の気づかいに学ぼうという動きが出ている。例えば、江戸の町で道をすれ違うとき、お互いに傘を傾けてしずくがかからないようにする気づかい、相手を思いやりゆずりあう気づかい等を、現代の公共マナーに生かそうというものである。

## 「江戸っ子の気づかい」に学ぶ

(P. 8 ~ P.12参照)



開会式・日本選手団の入場



実験試験



江戸町人研究会の月例会



閉会式・  
金メダルを授与される大月君

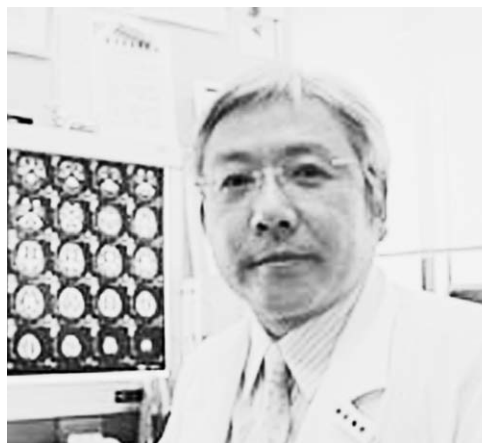


# 地域医療を進める

医療は、科学である医学を基礎として、人の健康の増進、維持、回復をはかる営みですが、その中でも地域医療は、地域の人々のコミュニケーションのかわり合いの中で、単に病気の科学的治療にとどまらず、健康予防から介護まで含めて広く健康増進をはかる、科学を越えた社会的な取り組みと言えます。

ここでは地域医療に取り組む二つの病院と筑波大学の取り組み等をご紹介します。

## 県南病院の地域医療への取り組み



医療法人財団 県南病院  
院長 塚田 篤郎

まず最初に自己紹介をさせていただきます。私は1974年に筑波大学医学専門学群に入学し、80年に卒業しました筑波大学の第1回生です。当時は、筑波大学には茗溪会の諸先輩方は多数おられました。筑波大学の卒業生としては最初という立場でした。卒業と同時に筑波大学附属病院の脳神経外科研修医として、医師人生をスタートしました。

当時の大学周辺（つくば市ではなく新治郡桜村）は現在と比べるとびっくりするほど静かで、「まったりつくば」で賑わうあの界限は道路さえもない頃でした。

1985年に所謂「つくば科学博」が開催され、1987年につくば市が誕生

### 父の跡を継いで

してから現在につながる流れができたわけで、私たち1回生はそれを目の当たりにして来ました。卒業時は、脳外科の研修先となるような関連病院は近隣にない状況で、2年間大学病院でジュニアレジデント、3年目に県西総合病院医員、4年目にシニアの学年で実質上チーフレジデントの仕事をし、5年目に日立の秦病院で研修を受け、6年目に筑波メディカルセンターの創設に駆り出され、7年目に再び県西総合病院で勤務させて頂き、脳神経外科専門医を取得しました。牧豊名誉教授、能勢忠男名誉教授、中田義隆教授以下多くの諸先輩方にご指導いただき最短コースで、特に臨床面で当時は半人前かも知れなかつた私を一人前にして頂きました。その後、下垂体関連で博士号を取得し、臨床医学講師を経て、1990年に現在の医療法人財団県南病院（亡父が1965年に外科病院として設立）に戻りました。十年余となる諸先輩方のご指導に出来るべく、主に脳神経外科救急と脊椎脊髄外科の臨床と、微力ながらも後輩の指導ができれば、との思いで、当初3回生の山田 隆先生と伴に脳外科中心の病院をスタートさせました。

当時の能勢教授のご指導により、手術室に術中CTが可能な装置を導入しました。また人的には筑波大学脳神経外科を

初め、整形外科、呼吸器外科、循環器内科、消化器内科などのバックアップを頂き、現在まで何とか頑張つて継続してまいりました。

私が戻る前は、院長であった父は、外科特に消化器外科が専門であり、父の時代は一般外科、消化器外科、交通外傷などを中心にかなり広範囲に診療しており、頭が下がる思いでした。私も戻る前2年間は非常勤として勤務していたので、一緒に手術に入ったりもしました。90年からは外科、内科系の病院から脳外科中心とした専門病院に徐々に移行できるようになりました。私に對してかなり気を遣っていました。私は30代半ばでしたので、体力も十分に週に2〜3回当直しながら、無我夢中で診療していました。その頃、この地域では土浦協同病院と国立霞ヶ浦病院は救急告示の総合病院として診療されていましたが、脳外科に関しては現在ほど医師も充足していなかつたため、脳血管障害、外傷などを中心に当院にも救急搬送がかなりありました。また当初より脊椎脊髄疾患には積極的に取り組んでおり、特に頸椎病変に對しては手術治療もかなりおなしました。当時は脊髄に對して前方からのアプローチを数多く施行した記憶があります。また、救急車だけでなく、地域住民に對しては神経疾患に限らず、プライマリーには何でも診察するように心がけていました。医師以外のスタッフの充実も図り、救急告示病院の指定も受けることができました。

### 脳外科医として

その後7〜8年間は若干経験も積んで

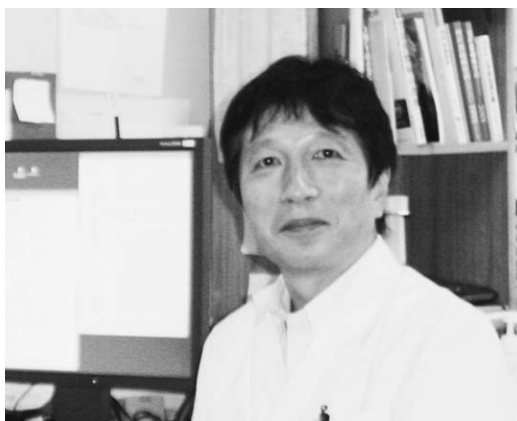


きたので、脳腫瘍や、やや難度の高い血管障害にも取り組むようになり、より手術の成績の向上を目指すように努力しました。この頃になると母体である筑波大学脳神経外科も構成員が増え、グループとして充実して来たので優秀な人材も多数当院にいらっしやいました。また当院は立地条件にも恵まれ、大学からも車で15〜20分位でアクセスできるため、手術の上手な先輩や、脳血管内手術などのスペシャリティーを招聘することもできました。そして最近の5〜6年ですが、やはり医療を取り巻く状況はかなり急速に変わりつつあると思います。まず、医学の進歩、医療技術の進歩は目覚ましく、特に大学等を中心とした高度先進医療や、一方で救命救急センターを中心とした救急医療体制などが充実し、また各疾患に対してもパスを作成し、効率よく急性期から慢性期の流れを作り、在宅介護に持っていくというのが大きな国の方針と思われまます。このような状況下、当院でも急性期の手術を中心とした診療から、リハビリテーション、介護関係の充実を図る方向にシフトして来ています。やはり社会のニーズに合わせて考え方を考えていかなくてはいいないと思います。しかし一方で我々が直接接する患者さん、その家族はまさに生き物で、各々の社会的環境あるいは言葉では言い表せないような心情的なものなどは全く異なることもあり、画一的な方策のみでは幸せになれないと思うのです。そのような狭間にある人々に柔軟にかつ適切に手をさしのべていくのが本当の意味での地域医療ではないか、具体的な名案はないのですが、今後5年位はこういうことをじっくり考えてみたいと思います。

きたので、脳腫瘍や、やや難度の高い血管障害にも取り組むようになり、より手術の成績の向上を目指すように努力しました。この頃になると母体である筑波大学脳神経外科も構成員が増え、グループとして充実して来たので優秀な人材も多数当院にいらっしやいました。また当院は立地条件にも恵まれ、大学からも車で15〜20分位でアクセスできるため、手術の上手な先輩や、脳血管内手術などのスペシャリティーを招聘することもできました。そして最近の5〜6年ですが、やはり医療を取り巻く状況はかなり急速に変わりつつあると思います。まず、医学の進歩、医療技術の進歩は目覚ましく、特に大学等を中心とした高度先進医療や、一方で救命救急センターを中心とした救急医療体制などが充実し、また各疾患に対してもパスを作成し、効率よく急性期から慢性期の流れを作り、在宅介護に持っていくというのが大きな国の方針と思われまます。このような状況下、当院でも急性期の手術を中心とした診療から、リハビリテーション、介護関係の充実を図る方向にシフトして来ています。やはり社会のニーズに合わせて考え方を考えていかなくてはいいないと思います。しかし一方で我々が直接接する患者さん、その家族はまさに生き物で、各々の社会的環境あるいは言葉では言い表せないような心情的なものなどは全く異なることもあり、画一的な方策のみでは幸せになれないと思うのです。そのような狭間にある人々に柔軟にかつ適切に手をさしのべていくのが本当の意味での地域医療ではないか、具体的な名案はないのですが、今後5年位はこういうことをじっくり考えてみたいと思います。

医療法人社団 誠弘会 池袋病院はNHKの朝の連続テレビ小説「つばさ」で有名になった埼玉県川越市の、その西部に位置する76床の病院です。内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、小児外科を標榜していますが、大学病院などに比べれば1/10にも満たない小規模な急性期病院です。

医療の提供をシステムとしてみた場合、高度に進歩した医療技術の提供から「こまごま」とした健康不安の解消に対して、おしなべて適切な答えを用意することはなかなか困難ことです。このため、先進・高度医療を担う3次機関と、それを支える、1次、2次医療機関、療養型病院やリハビリテーション専門病院などの連携、すなわち病診連携、病病連携がとても重要な鍵となってきました。そして、それぞれの病院は、その地域での役割を認識して、それに合わせて機能を整えて、形を変えて、言わばジグソーパズルの一ピースになることが求められます。学術的には興味深くとも、ごくまれな重病患者を高度先



医療法人社団 誠弘会 池袋病院  
理事長・院長 池袋 賢一

## 池袋病院の地域医療への取り組み

進医療機関が一人なおすのも、ごくありふれた生活習慣病の生活指導を地味に続けて、人ひとりの安らかな老後を実現するのも、ともに人ひとりの幸せ実現であり、地域の中で欠かすことのできない役割です。

### その実践

地域医療の実践では、患者と医療者の距離感をできるだけ縮めることがポイントの一つになります。日常の診療に加えて行政の提供する健康診査などへの協力や、人間ドックを通じた保健活動で地域全体の健康レベルの底上げをはかることはもちろんのこと、病院の玄関をただ開けておくのではなく、玄関から医療者が出て地域の中で活動し、また、地域の人々を広く中に招き入れて、共に健康について考える機会を設けるなどの活動から地域医療が始まります。

そのような活動は、池袋病院では看護部が中心となって計画していて、地域の夏祭りやよさこい音頭のおどりを披露する「よさこい隊」の派遣や、病院内で「看護の日」、「クリスマスコンサート」などのイベント開催を年中行事とすることで、日頃から医療機関への敷居をできるだけ低くする努力を重ねています。イベントといっても、院内に広い会場が有るわけではなく、職員の日常業務の合間をぬっての活動ですから、いたらぬ点多々あるわけですが、温かい心を、微笑みをとおして披露することに心をくだいています。[P4写真1]

また、中学・高校生へ職場体験の場を積極的に提供して、医療現場での仕事のすばらしさを理解していただけるよう働きかける努力も欠かせません。このような取り組みの中から未来の地域医療を支える若い力が育ってくるものと思います。[P4写真2]





## 質の確保

たとえ「地域」という修飾語をつけても、やはり医療にとつて最も重要な点は医療の質の確保です。このためには、医師、看護師をはじめ、十分かつ優秀な人員の確保が基本となりますが、医師不足、医療崩壊が報道で叫ばれるなか、容易ではありません。これを補うため、業務効率改善の目的で電子カルテ・オーダーリングシステムや医用画像情報システムなどを近隣の病院の先頭をきって導入してきました。レセプトオンライン化への反対など、踏み医療機関もありますが、導入してみますと、ピツピツとクリックするだけで過去の検査結果や、医療画像が瞬時に目の前に現れる、その利便性は計り知れないものがあります。最近では、近隣の3次医療機関への紹介や逆紹介の際などのX線フィルムのやりとりなどもCDに画像をコピーしてお持ちいただくことで、良質な画像をやりとりできるだけでなく、患者さんにとっても軽くてかさばらず、負担軽減に役立っています。もちろん、電子化されてPCのディスプレイを見ている医師の態度に、「暖かみが欠ける」と感じている患者さんもありますが、一緒に画面を見て、インフォームドコンセントにつとめることが新しい医療の形と理解していただいています。

また、客観的な医療の質を確保するために医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、認定を受けています。機能評価に対しては「会議や書類が多くなるばかりでマニユアル偏重」と批判的な意見を持つ一部の病院もある



◎写真1 看護部を中心とした「よさこい隊」に、子どもたちも加わって、よさこい踊りを元気よく披露 ～2008年5月 看護の日 待合室にて

子どもたちを中心に「ふれあい体験会」を

写真2 ～2009年7月 MRI室◎病室◎



医学に限界がなく、どんな病も解決できるなら、科学の実践の対象として患者さんを見ることも許されるでしょう。そうでないなら、医療者は、よい、優しい人であらねばなりません。一見、医療と関連しないようなことがらでも、地域社会等とのつながり～裾野をささえる大事なことがあると思います。

様ですが、医療機関とのつながりの少ない小病院では、職員に医療の質の標準を周知させるために、これが最大の近道と考えています。

以上、池袋病院での取り組みを紹介してきました。日本の医療は先進諸国の中で、とても少ない予算と医師、看護師の数でこれだけの成果を上げているごく優れたシステムです。その中心にある地域医療がこれからも良いシステムであり続けられるように様々な取り組みを通して情報発信を続けていきます。

## 筑波大学における

## 地域医療の取り組み

筑波大学 人間総合科学研究科

(地域医療教育学)

教授 前野 哲博

## 茨城県における地域医療の現状

昨今、医療崩壊、医師不足が大きな社会問題になっていますが、茨城県における医師不足は顕著であり、人口10万人あたりの医師数は155人(全国平均217人)で全国ワースト2位となっています。その大きな原因の一つに、筑波大学ができるまで県内に医師養成機関がなかったことが挙げられています。さらに、このような事情から、茨城県の医療機関は周辺都県にある大学病院から派遣を受けていた施設が多かったのですが、最近の医師不足でそれぞれの大学が医師を引き揚げる傾向を強めており、筑波大学単独ではその後をカバーできない状況が続いています。筑波大学も地域医療の確保に向けて医師派遣に努めておりますが、全国平均に追いつくだけでも約2千人の医師の増員を必要とする茨城県において、とても追いついていないのが現状です。

地域偏在についても、医師が自らの専門技術を磨くためには、しっかりと指導の下で十分な症例経験を積むことが必要ですが、地域によってはそうした体制が十分整っていない施設も多く、若手医師が行きたがらないため、なかなか地域住民の期待にお応えできないという現状があります。特に、2004年度から臨床研修制度が

大幅に変更されて研修医が実質上自由に研修施設を選べるようになってからは、研修医の流動性が高まり、研修環境の整った都市部の特定の病院に研修医が集中するようになりました。幸い、筑波大学は関係各位のご尽力により、国立大学では全国5位の研修医数を確保できていますが、もし、大学が研修体制の整っていない病院に強制的に医師を派遣するような配置を行うと、研修医から大学病院自体が敬遠されてしまい、大学そのものが立ちゆかなくなってしまうというジレンマに陥ってしまうという構図が生まれています。

### これまでの筑波大学の取り組み

このような大変厳しい現状ではありますが、本学は県内唯一の医師養成機関として、地域医療の充実のためにいろいろな対策に取り組んでいます。ここでは、代表的なものをいくつかご紹介したいと思います。

#### ・地域枠の導入

本年度より医学類の定員を8名増やし、そのうち5名は地域枠としました。地域枠で入学した学生は、茨城県からの奨学金を受けて、卒業後県内の医師不足地域で一定期間働くことが条件となっています。今後大学は、茨城県と協力して、地域枠の卒業生が、地域医療に貢献しつつ専門医などの資格も取得できるように研修プログラムを作成していくこととなります。

#### ・地域定着プログラムの導入

地域枠の学生に限らず、すべての医学類の学生を対象に、将来の地域定着を図るために、地域医療を学び、現場に触れ、その魅力を感じるための教育プログラムを導入しました。具体的には、早期体験実習（入学直後に地域医療の現場を見学する）、地域における在宅ケアの模擬カンファレンスの導入、地域住民を対象とした健康教室への医学生の参加、地域の病院・診療所での実習などがあります。特に今年度からは神栖市をモデル地区として、神栖市の全面的な協力の下、地域における保健・医療・福祉活動についてじっくり学ぶ実習が導入されました。

#### ・茨城県地域医療教育寄附講座の設置

茨城県からの寄附を受け、地域定着プログラムのコーナーディネットや地域医療に関する研究を行う寄附講座が本学に設置され、今年度より2名の専任教員が配置されて地域医療教育の充実を図っています。

#### ・地域医療調整委員会の設置

附属病院において、医師派遣の透明化を図るとともに、地域バランスを考慮した医師配置について検討することを目的として、地域医療調整委員会が設置されました。現在、地域医療機関からの派遣要望の調整や、計画的な医師配置に関する協議を行っています。

#### ・水戸地域医療教育センターの設置

今年度より、水戸協同病院に本学附属病院水戸地域医療教育センターが設置されました。水戸協同病院の運営母体である茨城県厚生連の全面的な協力の下、全国公募で集まった教員および若手医師をあわせて20人以上の医師が水戸地域医療教育センターに赴任して、水戸地区を中心とした救急を含む医療環境の改善に大きな役割を果たしています。

### さらなる地域医療の発展のために

医師不足問題については、医師の絶対数も限られている上に、医療費の削減などで病院の経営状況も厳しいため十分な資源投入もできない状態で、その解決は容易ではありません。

私は、地域医療再生のキーワードは、「医師のキャリアパスと地域医療の両立」と考えています。多くの若手医師が研修施設を選ぶ際に最も重要視しているのは、「医師としてのキャリアを重ねていけるかどうか」です。どんなに給料を積まれても、設備も十分ではなく、専門医資格も取得できず、十分な症例経験も積めず、良い指導も受けられない施設に若手医師が集まるはずがありません。従って、医師不足地域にポツンと単独で医師を派遣するような形ではうまく行かないと思いますし、それを無理強いすると若手医師は東京など他の地域に流れてしまいます。そこで、まずは大学から地域に医師を派遣する

拠点となる病院を決め、若手医師が安心して腕を磨くことができる環境を整えるとともに、その拠点病院をペーキャンブとして周辺の医師不足地域の医療機関との間で医師が循環する派遣システムを構築していくのが現実的な解決策だと考えています。さらに、最終的に地域に定着し、地域医療の第一線で長く活躍できる人材を増やすためには、地域住民の多様な健康問題に幅広く対応でき、多職種と連携して地域包括医療を実践できる総合医（家庭医）を体系的に養成するシステムも必要です。

このような医師養成システムは、大学単独で実現できるものではありません。地域住民、行政が「地域で働く医師は地域で育てる」のコンセプトを共有して、長期的かつ包括的なビジョンのもとで、地域一体となって「若手医師が行きたくなる」環境整備を計画的に推進する必

外来での教育







地域住民を対象とした健康教室

要があります。また、医師の絶対数を増やすだけではなく、医療資源を効率的に活用できるように、医師が本来の仕事に集中できるようサポートするスタッフを増やすことも必要です。それから、医療サービスの供給側の対策だけでなく、地域住民が、自らの健康・医療に対する意識を高めて疾患の発症を予防するとともに、セルフケアを充実させて、いわゆる「コンビニ受診」を減らし、医療現場での過重な負荷を軽減したりするような取り組みも欠かせません。

地域医療再生に向けて、県内の研修医の半数以上、後期専門研修医（おおよそ6年目までの医師）の8割以上が在籍する筑波大学の果たすべき役割は極めて大きいと思っています。地域住民が安心して医療を受けられる環境の実現に向けて、今後も努力していきたいと思っています。

平成21年4月、新に誕生した、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターに着任させていただきました。筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターは山田信博学長、五十嵐哲也病院長をはじめ多くの先生方の新しい着想と構想、さらに力強い牽引と努力により実現した、全国初の、民間病院と国立大学の協定による大学のサテライトキャンパスであります。水戸協同病院内に設立される過程では、水戸協同病院院長平野篤先生の真摯かつ強力な理解と招引、さらに茨城県厚生連の方々の理解と熱意も特筆されるべきであり、まさしく国立大学法人と民

**筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターにおける地域医療への取り組み**

筑波大学附属病院  
水戸地域医療教育センター  
センター部長・教授 渡辺 重行



公民館での巡回診療



診の方が具合が悪くなり医療を求めるときは、後者はさらに、普段かかっていた医療機関が開業医か病院かにかかれます。病院

さて、実現すべき地域医療の姿はどうあるべきでしょうか。地域医療とは、「包括医療（保健予防、疾病治療、後療法および更生医療）」を、地域住民に対して社会的に適応し実践すること」と広義に定義されますが、その基盤として、最も重要な「地域住民の健康を守ること」を先ず実践させなければなりません。多くの医療従事者の多大な努力にもかかわらず、この当たり前のことを実践する事さえも簡単にはかなわないのが、現在の医療現場の現状であります。患者さんが医療を求める形態を見直してみると、今まで医療機関にかかっていた方が急に具合が悪くなり医療を求める場合と、現在継続受

### 地域医療の姿は

間病院の協力による全く新しい創造であります。

水戸地域医療教育センターには、私を含め4名の教授、5名の准教授、2名の講師、計11名が教官として就任し、同時に、11名の医師、研修医が水戸協同病院医師として着任いたしました。先述のように、水戸地域医療教育センターは、日本国内でも他に全く例のない先進的な試みです。その設立の目的は、特定機能病院として高度医療を担っている筑波大学附属病院と、市中病院として一次・二次医療を支えている水戸協同病院が連携し、診療、研究を実践して行くことでもあります。その中で、最も重要な目標は、地域医療教育センターの名のとおり、地域に根ざしたプライマリケアの現場で、現場の姿の地域医療を、卒前、卒後において実践的に教育することでありませぬ。



にかかっていた患者さんが具合が悪くなったときにはその病院に受診を求めることが通常で、この体制がとれない状況は論外としても、開業医にかかっている方が具合が悪くなった場合と、未受診の方が急な医療を必要としたときの医療体制が、少なくとも水戸地域の医療状況として、決定的に不十分な状況にあったように感じられます。特に、自分の患者さんが具合が悪くなったときに自らの力で病院を紹介してあげられない開業医の苦悩は正に叫びに似た声でもありました。

以上のごとく、どこの地域でもそうであるように、特に水戸地域においては、地域医療の実践には、開業医との連携が重要で、加えて救急隊の要望にどれだけ応えられるかが大きな課題であり、その解決の糸口を探すことを筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの第一

の目標と考えました。この目標をいかなる形で具体化して行くか、水戸地域医療教育センターに着任することになった我々教官11名は、着任前よりメーリングリスト上でその構想の具体策について、議論に議論を重ねてまいりました。

水戸協同病院の先生方も含めたメーリングリスト上で先ず確認したことは、この全く新しい試みを成功させるために必要なことは、水戸地域医療教育センター教員と水戸協同病院医師とが、一体化して仕事にあたる意識、体制と環境作りにあるという点です。水戸協同病院の中に水戸地域医療教育センターがあるのではなく、水戸協同病院と水戸地域医療教育センターは同じものであるという認識で、センター教員も協同病院医師も、互いに共通の診療グループを形成して、診療、教育にあたるという認識です。

### あらゆる患者さんへ対応を

地域医療を構築するためにさらに必要なことは、あらゆる患者さんに対応できる幅広い診療体制です。このため、まず内科は、専門科の垣根を取り払い、すべての医師が総合診療科に属し診療にあたることとしました。また、患者さんの診療にあたっては、研修医とチーフレジデントあるいはクリニカルフェロー（ポストレジデント）とが、3人の複数の診療科にまたがる診療チームを作り、診療科領域を越えた様々な患者の診療にあたり、11名のセンター教官および協同病院医師が各チームをサポート・指導すると共に共同で診療にあたるという、極めて斬新な診療体制を形作りました。こうすることにより、診療科の垣根を越えた診療が可能となると共に、どの科にも属さぬ患者さんをはじめ、いかなる種類の症状の患者さんにも対応できる体制が可能となりました。

さらに内科にとどまらず関連する外科の医師・教官もその診療をサポートする体制を構築し、すなわち〇〇内科、〇〇外科の垣根も取り払う体制を構築いたしました。これにより、研修医は、専門の診療科を越えた内科・外科全体の医師のサポートのもと、特定の疾患に対する高

度な専門知識と技術を習得することが可能となり、プライマリ・ケア、地域医療を実践可能な有能な医師の育成が可能となります。毎週1回火曜の午前中は、全ての内科医はもちろんのこと、脳神経外科、消化器外科など外科系医師の出席も得て、全体回診が行われております。

次に開業の先生方および救急隊との連携を強め連絡を密にするため、「内科系ダイレクトPHS」、「外科系ダイレクトPHS」を導入し、その番号を周辺救急隊はじめ、水戸市内はもちろん、ひたちなか市、那珂市、常陸太田市、茨城町、小美玉市など周辺市内の全ての開業医にお知らせし、ダイレクトに救急担当医師につながるようになりました。これにより、開業の先生が患者さんの病状で困ったとき、いつでも直接当院医師と話ができ、必要に応じて外来あるいは入院診療をお受けする体制をとりました。

これに加え、医師、研修医はもちろんのこと、看護師、医療技術職員への教育も充実させ、院内のみならず、院外に開かれたあらゆる分野の医師向け、医療スタッフ向けのレクチャーを開催し、お互いの診療能力を高め維持して行くこととしました。当初は、週1回のレクチャーを予定しておりましたが、医師向け、医師・コメディカル全体向け、看護師向け、看護師を含むコメディカル向け、などたくさんさんのレクチャー形態をとることが必要とわかり、7月からは、毎週月曜、火曜、水曜、金曜とほぼ毎日レクチャーが行われている形となりました。

以上のような診療、教育活動を展開し、地域医療に窮している茨城県央、県北地区の地域医療、救急医療を助け、筑波大学のサテライトとして、専門分化されすぎない総合的な医学生、研修医教育の場を提供し、学術的にも世界レベルの臨床研究を発信してゆく場として発展させていこうと力を合わせているところであります。

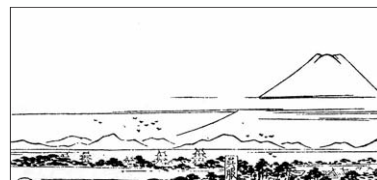
もとより微力ではありますが、筑波大学の教官として今後も筑波大学附属病院、大学院と協力し、臨床教育、研究を継続、筑波大学として取り組む新たな水戸地域医療教育センタープロジェクトの成功のために全力を尽くしたいと考えております。今後もお一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



# 「江戸っ子の気づかい」に学ぶ

## 都市化する現代社会の公共マナー

現代の日本社会では、急激な経済成長と都市化が人々の暮らしぶりをすっかり変えた。人付き合いのしかたも、地域の生活圏での住まい方も変わってしまった。一方、同じように急激な都市化のすすんだ江戸の町では、暮らし方をめぐってさまざまな工夫があったことが知られている。トラブルを避け、お互いが気持ちよく暮らすための人付き合いの智慧を生み出していたという。江戸町人研究会のお二人に、江戸っ子の生き方を学ぼうという視点から、お話を展開していただいた。



## 江戸っ子の美意識

成城大学名誉教授

吉原 健一郎

江戸町人研究会

### 都市生活のマナー

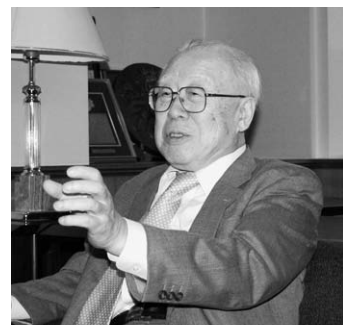
しばらく前、地下鉄ホームの広告や電車のなかのポスターなどに「江戸しぐさ」という言葉が目についた。そのねらいは、今の社会は公共の場でのマナーが悪くなっている、江戸のマナーを見習って改善しようという主張だろう。

たしかに、最近のマナーの低下は目に余るものがある。一例をあげれば、道を歩いていてすれ違うときに、相手を気づかっているとは思えない行為が目につく。自分がよけるのではなく、相手がよけるのが当然だという歩きかたである。おまけに、人混みの駅中通路でも、あたかも自分一人で歩いているとでもいうように、携帯電話を見ながら歩く者も少なくない。もつとひどいのは、自転車に乗って携帯電話を見るなど、傍若無人の者もいる。

こうした風潮は、最近10年ほどの間

### 吉原 健一郎

東京教育大学大学院修士課程修了、近世物産史・庶民史専攻、東京都公文書館、成城大学教授などを経て同大学名誉教授、江戸町人研究会事務局長  
著書 『江戸の町役人』、『江戸の情報屋』など多数



### 「江戸しぐさ」あれこれ

「江戸しぐさ」について主張しているのは越川禮子氏である。たとえば、「江戸しぐさ」の例として、「傘かしげ」がある。雨の日などに道ですれ違うとき、おたがいに傘を傾けて、しずくがかからないようにする行為である。こうした相手を思いやる精神、ゆずりあいの精神は、江戸っ子が子どものころから身につけた「くせ」なのだという。

おなじように「肩引き」も、せまい道路や路地、込み合った場所で、前方から人が来たとき、おたがいに右の肩を引いて胸と胸とを合わせるようにしてすれ違うしぐさだ。これは右の腕を使わないという意思表示であり、敵意のないことをあらわしたしぐさだと説かれる。

また「こぶし腰うかせ」は、川の渡し場で渡し舟に乗るときに、あとからきた客の席をつくるため、座っている者がこぶしをついて詰めてあげるといいうしぐさである。こうした譲り合いの気持ちや心配りが「くせ」として自然に行われていたという。それに引き換え、最近では電車のシルバースーツでふんぞり返っている若者をよく見かける。なかには寝たふりをしている者もいて、あきれ

に、一層ひどくなってきたような気がする。社会全体がギスギスして自分さえよければいいのだという意識や、精神よりも物質だという意識が支配しているのではないだろうか。さらに、ゲーム感覚で生きていくために、現実と非現実の境があやふやになってしまっている。肉親を殺害したり、仲間をいじめたり、いじめられたり、自殺が横行したりする現代の日本社会のような極端な現象は、他の国々には見られない情けない現象なのではないだろうか。

つぎに「うかつあやまり」とは、人ごみのなかで足を踏まれたときに、踏んだほうがあやまるのは当然だが、踏まれたほうも自分もうつかりしていたとあやまるしぐさだという。

このように「江戸しぐさ」という言葉は、江戸という大都市に住む町人の生活の知恵のようなものではないかと考えるだろう。しかし、越川さんに言わせれば、そんな単純なものではないらしい。それは江戸ツ子である江戸商人のトップに立つリーダーたちの生き方、考え方、さらには口のきき方や身のこなし方などの行動そのものであるという。美意識・生活感・処世感・感性などを体系化した、人の上に立つ人々の実践哲学であるともいう。つまり「江戸しぐさ」とは商人道なのだといわれる。これは二百年以上も続いた江戸の繁栄と平和のなかで為政者と呼应して形成された町のリーダーの功績であるとす。端的に言えば「江戸しぐさ」は「繁盛しぐさ」もしくは「商人しぐさ」のことであると紹介されている。

## 江戸ツ子の誕生

私は恩師である西山松之助氏が主宰する江戸町人研究会のメンバーとして40年以上も前から江戸の研究を行っている。そうした研究成果をもとに私なりの「しぐさ」についての考えを述べてみよう。

まず、江戸ツ子の「しぐさ」を考える前提として、江戸ツ子とはどういう人種なのだろうか。西山氏は江戸時代の文献を整理され、最初のもは明和八年（一七七二）の川柳にある

江戸ツ子の わらんじをはく らんがしぎ

であるとされる。これは、江戸の人が旅に出て、朝わらじをはいて出発するときに騒々しいというような意味である。都会人である江戸ツ子の早口でおしゃべりなようである。

それから十七年ほど過ぎて、山東京伝は洒落本を書いて典型的な江戸ツ子像を描いた。それによれば、江戸ツ子とは金のシヤチホコをにらんで、水道の水でウブユを

使い、將軍の御膝元に生まれた者のことだといふ。さら

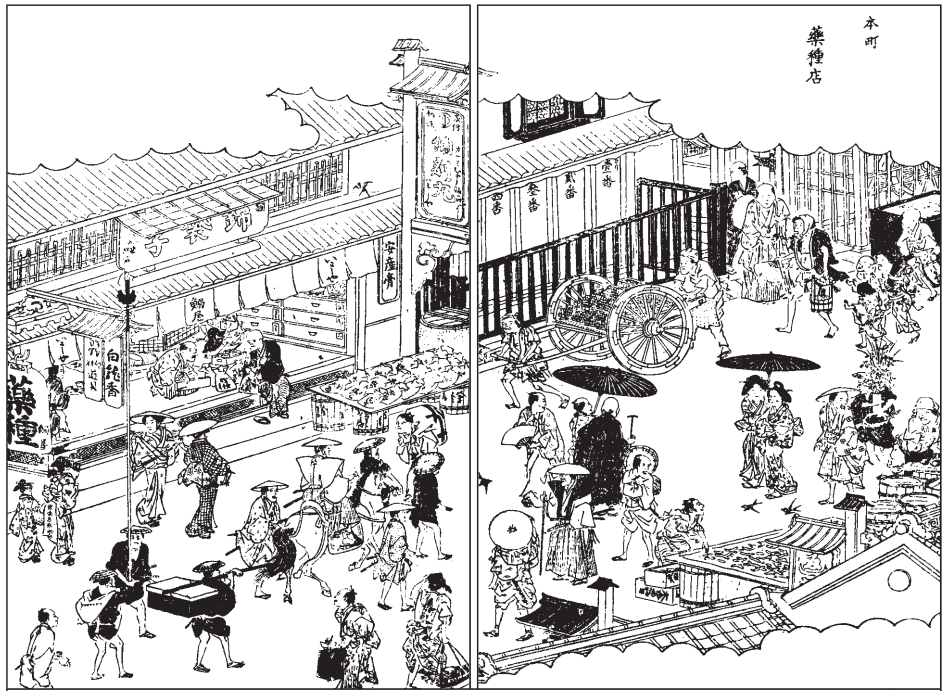
に、金貨・銀貨をオハジキにし、隅田川の白魚も中落ちのところは食べず、最後には日本橋本町の屋敷を売り払い、遊郭で使い果たすのが江戸ツ子の根性であるという。

これは、江戸の通人の生きざまの一例であつて、すべてにあてはまるものではない。しかし、江戸には日本橋の魚河岸商人など江戸根生いの町人がいて、十八世紀の後半になると、江戸ツ子という呼び名で総称されるようになる。

## 自称「江戸ツ子」

しかし、時代が下り文化・文政のころになると、庶民のなかに自分が江戸ツ子であることを自慢するような風潮がうまれた。これが自称「江戸ツ子」である。

江戸の庶民というのは、裏長屋に住む日雇いの者や人



江戸・日本橋本町のにぎわい。薬種店前の通り。乗馬姿の武士が行く。その供7人、5~6百石級の旗本であろうか。大八車を引く男、その後には願人坊主と子どもたちが来る。露店で貝を売る女、三味線を抱えた鳥追い女の二人づれも見える。江戸の町は様々な身分の人々がひしめき合って行き来していた。  
『江戸名所図会』

足、大工や左官など建築関係の仲間賃取りの職人、天秤棒をかついで物売の棒手振（ぼてふり）などであった。彼らは地主が所持している屋敷地の裏に建てられた共同住宅に住んだが、その住居は九尺二間（くしやくにけん）という、大変に狭い居住空間であった。これは、畳の敷いてあるところは四畳半だけで、あとは半間四方の土間と台所となつてゐる。

トイレは、多人数の居住者のわりには二つか三つしかない。井戸は一つで道路の下を流れる水道の水を引き込んで溜めてある。したがって、顔や食器を洗うのは井戸端であり、住人はいつでも顔をあわせることになる。情報交換の場としても活用された。

このように、プライベートなどはない空間に住んでいるので、おたがいに相手を感じない最低限のマナーを守らなければ生きていけないのである。「煮物を作り過ぎたから食べるのを手伝つて」と、隣人への気づかいをしながら食事を分け合うなど、つまり、共同生活のなかで、肩を寄せ合つて生きていくのだから、子どもたちから親たちのマナー（しぐさ）をみて成長しているのである。家には風呂はないから、町の湯屋に行くが、そこでも大人から集団のなかで付き合うマナーを学んだのである。また、湯屋の二階や床屋はコミュニケーションを持つためのサロンでもあつた。





江戸町人研究会 江戸学を提唱した西山松之助氏が主宰する研究会で、江戸の文化や生活・経済など町人に関する研究を続けている。設立以来40年。「江戸町人の研究」全6巻(吉川弘文館)を出している。月例会は茗溪会館を会場にしている。

## 江戸ツ子の地域性

ただ、ここで問題なのは、江戸ツ子はどこに住んでいたのか、ということであろう。三田村鳶魚氏の指摘されているように、厳密に言えば初期の江戸の城下町が江戸の下町である。したがって、江戸時代の中頃までは、白山・牛込などの山の手や浅草の者は日本橋あたりに出かけることを下町へいく、あるいは江戸へいくといったようである。おなじく、隅田川東岸の本所や深川も当初は江戸の範囲ではなかった。

したがって、本来の江戸は日本橋から新橋にいたる下町の埋立地が中心であり、これに神田や芝がつながっているという構造になっている。これが文化・文政時代になると、江戸の範囲が拡大していくのだという。ところが、三田村氏が誤解しているのは、日本橋などの中心部は地価が高いので、裏長屋などではなく店借人などはいないと指摘していることである。しかし、実態はそうでは

なく日本橋や京橋あたりの町においても多数の下層町人が住んでいたのである。

当時の江戸の人口は、100万人を超え、世界でも最大の人口をもつ都市として発展していた。しかし、町人は狭い地域に集団で住んでいたのだ。日本橋地域の人口密度は一方キロメートルにして十万人になるという研究もある。これは、現在の日本には存在しない密度であり、スリランカなどのスラムの密度である。さきに述べたように、こうした密集した居住空間において、相互の気づかいがいかに大切かはいうまでもないことだろう。

時代が下ると、江戸ツ子の概念や地域性も変化していく。「宵越しの銭は持たない」という金離れの良さを自慢にする下町の江戸ツ子にたいし、山の手風の江戸ツ子は銭づかいがきたないという。つまり、江戸ツ子概念は旗本や御家人といった武士にまで拡大されたのである(鹿島萬兵衛『江戸の夕栄』中公文庫)。鹿島は、山の手江戸ツ子は野暮地味の風だとしている。

## 「いき」と「はり」

このような大都会にすむ江戸の人びとにとって、その行動原理ともいえるべき美意識の一つが「いき」である。その特色は気性・態度・身なりがあか抜けし、さっぱりしていて、しゃれた色気があることである。もとは「意気」からきた言葉だというが、恋をつらぬく意気地のことであるという。のちには「粹」という文字もあてられた。

「いき」を象徴する人物といえば芝居の助六であり、のちには江戸ツ子の代表的人物のようになっていた。「いき」は遊里での遊びに通じていることも意味し、「通」は事情を理解するわけしりのことであった。つまり、「通」は相手の心情を思いやり、無理を通そうとはしない態度のことであろう。「意気」の反対は「やぼ」であり、江戸ツ子がかつともさらう言葉であった。

武士と町人が共存する都市のなかで、江戸の面積の15パーセントほどの地域に押し込められて住む約50万人の町人たちは、派手な行為は慎まねばならなかった。「い

き」とは色でいえば原色ではなく、茶・ねずみなどの渋い色である。また模様は縦じまなど、あつさりしたデザインが好まれた。小紋なども遠くからみれば、ただの色柄にしか見えないような工夫であった。

また「はり」とは、自分の意思や意見を曲げず、どこまでも通そうとする精神である。「はり」は張り合うという意識であり、50万人以上いたとされる武士や、他地域から江戸にやってきた人々に対抗する精神でもあった。江戸ツ子は50万人の町人のなかでも10パーセントほどの少数派であった。彼らは意地を通すために、喧嘩をすることも多かった。こうして「はり」の精神は「いき」という美意識を構成する重要な要素になっていく。

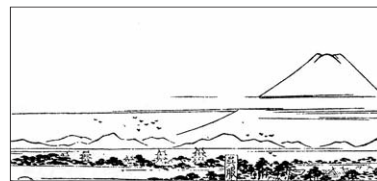
## 江戸ツ子の生きざま

こうした「いき」や「はり」をベースにして、江戸ツ子たちは都市生活者としての行動原理を作りだしていったのである。最近話題になっている「江戸しぐさ」も、こうした行動原理の現れと見るべきだろう。江戸ツ子精神は他人に迷惑をかけない生き方であり、相手を思いやる気づかいの文化であった。彼らは子どもときから、町という地域のなかで育てられた。そこには、共通した美意識をもった大人たちがいて、自分の子も他人の子も分け隔てなくしつけていたのである。

現代社会における教育は知育のみが優先し、徳育にはあまり重きを置かれていない。そのため、生きることについて価値観が変わってしまった。他人を思いやる気づかいが失われてしまったのである。もう一度江戸ツ子の気づかいに学ぶことが大切なのではないだろうか。

## 【参考文献】

- 三田村鳶魚『江戸ツ子』(中央公論社、1997年)
- 越川 禮子『商人道「江戸しぐさ」の知恵袋』(講談社、2001年)
- 西山松之助『江戸ツ子』(吉川弘文館、2006年)



# 「同舟相救う」

立正大学名誉教授

北原

進

江戸町人研究会



## バスの中での声かけ

混んだバスに乗り合わせた時のこと、入口近くに老人が立っているのは危ないので、運転手にうながされ奥に詰めようとしたが、あいにく一杯で進めない。奥の方はすいており、空席もみえた。

やおら中年の女性が大きい声で呼びかけた。

「も少し詰めて頂けませんか。まだ人が乗ります」と。声につられて、みな半歩ぐらいたつ素直に足を移し、何事もなくバスは走り出したのである。

わずかな時間であったが、誰もこの声の主に対して、余計なお節介とか、出しゃ張りという気持ちを抱かなかつたに違いない。「同舟相救う」(孫子)という古い言葉を思い出した。

現代では、人なかで声を出して何かを迪(すす)めたり、注意を促すことは、とても勇気の要ることである。文句をつけられたかのように不機嫌になり、逆に暴力を受けたという例もあった。だから最近では、良いことと分かっていても知らん顔で口出ししない。それが生き方上手な人の、要領よい逃げのしぐさである。現代の東京は、ひと昔前にもついていた良さを、すっかりなくしてしまつたのだろうか。古い社会の良さを保持して住み易さを保つという点で、東京はヨーロッパの歴史的都市に遅れをとっているようだ。

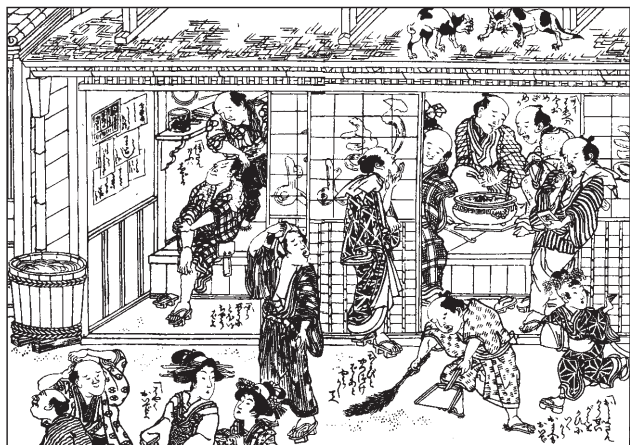
## 小さな親切と江戸しぐさ

話を元に戻そう。バスの中の人々が、何も意地悪で知らん顔をしていた訳ではない。ただ、一人の女性の声によつて、他人同士が「袖振れあう他生の縁」を気付かせてくれたのである。この声かけを何と呼ぼうか。

ひと頃、「小さな親切」という言葉がもてはやされた。かつて東大総長の茅先生が、卒業生への訓辞で提唱されたのがきっかけで、やがてこれを運動として積極的に進めようという人が出てきた反面、「小さな親切、大きなお世話」とまげ返す手合



長屋の入口には裏店の商いの看板が出ていた。奥に井戸があることを示す「井」のマークが入口の上に見える。『浮世床』



露地を入ると、長屋の人々の自由な生活空間。小僧さんが道を掃き、打ち水をしている。防火用の雨水をためる桶も見える。『浮世床』

いも出てきて、いっしつか呼びかけの声は小さくなった。近ごろ、「江戸しぐさ」が注目されている。魅力的な、良い言葉だと思ふ。昔、江戸で生まれた、どこか粹な所作を指しているように思われる。都市生活の日常で、周囲の人も自分も、暮らし良い気持ちを持ちあえる、思いやりの籠もつた行い。しかもそれは目立たず、人々に習慣化されたしぐさを指している様である。

### 北原 進

立正大学大学院修士課程修了。立正大学教授、江戸東京博物館都市歴史研究室長などを経て立正大学名誉教授  
著書 『江戸の高利貸一旗本・御家人と札差』、『八百八町いきなりくり』など多数



色を感じるが、江戸しぐさと対比できるのだろうか。  
あるいは大都市生活の中から、どこでも行われる好ましいしぐさを、「江戸しぐさ」に取り込んでしまっていることはないだろうか。

先述のように、「江戸しぐさ」という言葉は、江戸っ子・東京人にとって大へん嬉しい気がするが、それが本当に江戸で生まれた、江戸特有のしぐさと言えるものか否かこの辺は謙虚に考えてみる余裕を持ちたいものである。決して江戸の不名誉になることはない。

例えば「傘かしげ」。雨の日なら全国どここの露地でも、パリやロンドン、ニューヨークの狭い通路でも、誰もが経験することではないか。大都市の人混みで、人々がスムーズに生活していくための、ほとんど自然とあって良いしぐさではないだろうか。その都市の人々が、すべて自己中心の出しや張りばかりであるならば別だけれど…。

### 町方生活の気づかい

周知のように江戸は、十七世紀から急速に都市化が進み、十八世紀に入る頃には人口百万を優に超える大都市となった。その人口の60%は行政官僚たる武家、残りが工・商の町人の、二つの身分層から構成されていた。しかも後者の居住地域は、江戸都市域の15%に満たぬ面積に押し込まれていた。

町人は、最大の顧客であり上位の身分である武家に対し、常に遠慮とへりくだりをもって対さねばならず、町人同士では狭い町地の店(たな)や長屋に、文字通り肩寄せ合って住んでいた。町人たちの日常が、隣人や仲間の迷惑にならぬ様、人からもそれを受けぬようと心掛けたのも当然である。

江戸の商人・職人たちは、互いに競争しても、相手を出し抜いて儲けを独り占めすることは、モラルとしてできなかつた。町人同士はしよせん、各地から新興の大都市に吹き寄せられた木の葉のような庶民であり、飯の種を得る最大の相手は武家であった。

そのような江戸町人独特な生活信条こそ、江戸しぐさを生む源泉であった。隣を思いながらちよつと腰を上げ

たり屈めたり、肩を斜めに混雑を通り抜け、声を掛けて席を詰めあう、などは江戸独自といえないまでも、江戸社会で鍛えられた作法であった。

### 掃除・早起き・挨拶

今も下町の一部では、家の回りや店前の通りを掃くとき、決して隣近所まで掃除をしてあげない。境い目は一尺だけ余分に箒を入ると聞いた。それは不親切なのではない。お互いの領分を犯さないこと、しかも境い目にごみの筋が残るのを避けるためである。これは町会や組合が決めたものではない。いつの頃からか、そうしているのである。美しい風習というべきではないか。

子どもたちが、家や学校の廊下を雑巾がけするときも、受持ちの分より30センチ余分に拭かせ、分担の境界にゴミが筋にならないようにした。これは、塾や学校がカリキュラムで教えられるものではない。

どこでも商家の朝は六ツ時(午前6時)頃から始まる。店と表通りの掃除と水打ち、すでに通り始めた人に対して、粗相のないようにするが、奉公人たちは先輩から見習ったり要領を教わったりして、これを後輩に伝えていく。江戸の商家が特に重視したのは、言葉遣いであった。主人・家族や奉公の先輩に対しては、朝の挨拶から厳しくしつけられ、やがて顧客や近隣・同業者へと広がる。外出が許され、お使いができるようになるのは十三、四歳からであるが、子供ながら上下を弁えた言葉遣いができるようになったとみられる頃である。特に武家の供方や家族に対しても非礼があつてはならない。

ふだん威勢の良い職人も同様で、師弟や仲間内はもちろん、武家屋敷に出入りする職人ならば、礼儀正しさをしぐさとして身にしみ込ませる必要があつた。

### 武家の心づかい

町人と間に生活する武家にも、武家らしい体面を保つた江戸しぐさが求められた。

天保六年正月、うぐいす谷(台東区)近くの朝風呂。先

に裸になった老人が、あまりに熱いので、番頭に水でうすめるよう頼んでいた。後から来た鳶職風の男が、「この位でうすめるなら水風呂の方がましだ。もつと焚け」とけんか腰でいう。老人は取り合わず、湯をうめさせ、悠々と暖まって出た。着物を整えて脇差しを差すと、番台で矢立と紙を借り、なにやらサラサラと書き付けた。

「うぐいす谷より出てウメよウメよと唱い、雀は藪を出てタケよタケよとさえずる。凍えもせず火傷もせず、互いに堪忍々々。

### 世渡りの

はた難しき湯(世)の中に

あかの他人の

入り込みにして

けんかにならなかつたのは、老人の落ち着いた態度が武家と感じさせ、男が言いがかりをやめたからであろう。老人の方は体面を保ちながら、朝の湯屋を騒がせずに収めた。町中で町人を隣人として、共に生活する心得は、武家にも必要であつた。

特定のパターン化されたしぐさではないが、大江戸に住む者同士の、共通の心情が流れているように思われる。

### 挿絵について

江戸名所図会 江戸・神田の名主 斎藤月岑(げっしん)が祖父から三代かかって編集したもので、大江戸の名所・旧跡などを紹介した図会である。画家は長谷川雪旦。東京堂出版『江戸名所図会を読む』から転載。浮世床 式亭三馬が江戸の社会・世相を描いた滑稽本。その第2編に添えられた絵図で、画家は歌川國直。小学館『日本古典文学全集47』から転載。

# 第20回国際生物学オリンピック (IBO2009)の成功への軌跡

筑波大学環境生命科学研究所教授  
国際生物学オリンピック組織委員会実行委員長

沼田 治

筑波大学企画室講師 実行委員会事務局局長

岩本 浩二

7月13日(月)にIBO2009つくばの開会式が秋篠宮殿下ご夫妻をお迎えして、盛大に行われました。開会式の後、実験試験、理論試験、エクスカージョン、そしてつくばナイトとスケジュールが着実に進行し、参加者から「問題の完成度は非常に高い」、「運営は非の打ちどころがない」、「食事は満足できる」、「ボランティアの学生諸君の働きは目を見張るものがある」、「筑波大学の学生から学長までが一丸となって努力している」等々のおほめの言葉をいただきました。そして、メダリストが発表された18日(土)の閉会式で、大月亮太君(千葉県立船橋高等学校3年)は総合6位という優秀な成績で日本選手としては初めての金メダルを受賞し、中山敦仁君(灘高等学校(兵庫県)2年)、谷中綾子さん(桜陰高等学校(東京都)2年)、山川真以さん(桜陰高等学校3年)の三人は銀メダルを受賞しました<sup>(注1)</sup>。これは今までで最高の成績です。IBO2009つくばの開催に関わってきたすべての方々にとって最高の結果であったと思えます。新聞各紙、テレビ、ラジオなどでも大会の成果が広く報道されました。準備をしてきた実行委員一人一人の努力が十二分に報われました。

注1: IBOでは金メダルは成績上位10%、銀メダルはその次の20%、そして銅メダルはその次の30%の選手が受賞します。

## 国際生物学オリンピックの歴史

国際生物学オリンピック( IBO )は1990年に当時のチェコスロバキアのオロモウツで第1回大会が開かれました。参加国はわずか6カ国でした。このオリンピックの目的は高校生と中学生を対象に生物学分野への関心を高めること、参加した生徒たちの生物学の学力を伸ばし、将来の生物学者を育成すること、そして各国の生物学教育の情報交換をすることなどです。

参加者には理論問題と実験問題が課されます。理論問題は生物学の全分野から80〜100題の問題が出題されます。実験問題は細胞学、生理学、分類学、形態学、遺伝学、発生学、生態学などの分野から4つの課題が出され、実際に実験を行って回答します。知識だけではなく実験の技術や問題解決能力が求められるのです。選手たちの生物学への興味・関心、独創性や忍耐力が勝負を分けるのです。

第1回から第20回までの開催国と参加国数を表1にまとめました。開催地によって上下するものの、回数を重ねるに従い参加国数が増加してきました。一方、成績に關しては、近年の上位常連国はアメリカ、中国、韓国、台湾、タイ、シンガポールとなっており、アジア各国の

表1

回数(開催年)	開催国	参加国数
第1回(1990年)	チェコ (旧チェコスロバキア)	6
第2回(1991年)	ロシア(旧ソビエト)	9
第3回(1992年)	スロバキア (旧チェコスロバキア)	12
第4回(1993年)	オランダ	15
第5回(1994年)	ブルガリア	18
第6回(1995年)	タイ	22
第7回(1996年)	ウクライナ	23
第8回(1997年)	トルクメニスタン	28
第9回(1998年)	ドイツ	33
第10回(1999年)	スエーデン	36
第11回(2000年)	トルコ	38
第12回(2001年)	ベルギー	38
第13回(2002年)	ラトビア	40
第14回(2003年)	ペラルーシ	41
第15回(2004年)	オーストラリア	40
第16回(2005年)	中国	50
第17回(2006年)	アルゼンチン	48
第18回(2007年)	カナダ	49
第19回(2008年)	インド	55
第20回(2009年)	日本	56

健闘が目立ちます。

## 国際生物学オリンピックへの日本の関わり

IBOの日本の参加は2005年の第16回中国大会からです。日本の参加が遅くなった原因は以下のようなことが考えられます。第一は国内で選手を選抜する組織がなかったことです。生物系の学協会や高校の先生方のIBOに対する関心が低かったのです。第二はIBOの試験が難しいことです。IBOの標準テキストとされる「キヤンベル生物学」はアメリカの大学教養課程等で用いられている教科書です。高校の授業内容ではIBOに挑戦することは非常に難しいわけです。出る杭を伸ばすようなエリート教育は日本ではほとんど行われていなかったのも一因です。第三は大学入試を目指して勉強している高校生にとってIBOに参加するメリットがなかったことです。非常に良い成績を上げている中国では、選手達は推薦入試で希望の大学に入学できます。韓国では選手対象の奨学金制度が充実しています。タイでは選手達は海外留学のチャンスが与えられます。

一点目の選抜組織については、文部科学省が国際科学オリンピック支援に踏み切ったこと、国内の有志が立ち上がったことなどがきっかけとなり、2004年に国際生物学オリンピック日本委員会( JBO )が設立されました。これにより2005年の中国大会から日本の選手たちがIBOに参加するようになりました。中国大会では銅メダル2個にとどまりましたが、2006年のアルゼンチン大会では銅メダル3個、2007年のカナダ大会では銀メダル1個と銅メダル3個、2008年のインド大会では銀メダル3個と銅メダル1個と成績が伸び、そして今年のつくば大会ではついに金メダル受賞者が誕生し、3個の銀メダルと合わせて過去最高の成績をあげました。年ごとの成績の上昇はJ



BOの先生方の地道な努力とそれに伴う予選参加人数の増加によるものと考えられます。

実際、2004年から2009年の予選受験者人数は324人↓443人↓851人↓1322人↓2069人↓2395人と増加しています。大学側も対応し、筑波大学、首都大学東京、慶応大学、東邦大学、早稲田大学、東京女子大学、立命館大学の7大学がIBO及びその選抜試験で優秀な成績を上げた生徒を対象にする入試枠を作りました。IBO2009つくばが契機となって、出る杭を伸ばす教育が徐々に広がっています。科学技術立国を目指す日本にとって、若者の人材育成は不可欠です。IBO活動が人材育成に直結するようなシステム作りが急務であると思います。

## IBO2006つくばの成功への軌跡と筑波大学の貢献

元々は2009年のIBOはギリシャで開催される予定でしたが、2006年11月にギリシャが突然キャンセルしました。そのため、IBO本部より日本に対して2009年の主催が打診されました。しかし、当時のIBOは組織の体力が弱く、2009年開催は不可能という意見が大勢を占めていました。これに対して2007年2月に一部の委員が安部政権下の官房副長官下村博文氏にIBO日本開催の援助をお願いしたことで、開催に舵は大きく切られました。しかし、どこが引き受けるのかの議論が続きました。3月初めに、当時の岩崎洋一筑波大学長、泉紳一郎副学長がIBOの筑波大学引き受けを決断し、要望書をJBOに提出しました。その結果、3月22日にIBOのつくば開催が決まりました。一方、筑波大学生物系教授会では全会一致で大会への全面的協力を決定し、また、生物学類教員会議では生物学類が中心になってIBO2009つくばを実行することが決まりました。

IBO2009つくばの予算としては科学技術振興機構(JST)からの支援金が2億円、学協会や民間からの寄付が1億3千万円の計3億3千万円が計上されました。2008年4月に募金委員会が発足し、募金委員長には

浅島誠東京大学副学長(当時)が就任しました。幸いなことに同年8月までに目標額は達成されました。これは若溪会をはじめ多くの企業、学協会、そして個人の協力ののおかげです。その直後の9月にはリーマンショックに端を発する世界的な金融危機が始まりましたので、まさに滑り込みセーフでした。2009年4月からは新型インフルエンザの脅威が世界中に広がり、開催が危ぶまれましたが、日本での流行が広がらなかったため開催に漕ぎ着くことができました。

## IBO2006つくば内容紹介

今回のオリンピックピックのスケジュールは表2のとおりです。特筆すべきことを簡単にまとめます。開会式に秋篠宮殿下妃殿下のご臨席を仰ぎ、殿下はお言葉において、先端的な分子生物学から古典的な形態学、分類学まで生物学の重要性を指摘され、「生物学オリンピックピックにチャレンジする選手諸君の健闘と、広く日本文化にしたしんでもらいたい」と述べられました。ウエルカムパーティーでは両殿下は日本、韓国、ブルガリア、ルーマニア、ハンガリー、オランダ、タイ、シンガポール、インド、台湾など多くの国の選手諸君やJuryの先生がたとご歓談

表 2

日 程	選 手	Jury
7月12日	レジストレーション/オリエンテーション	
	開会式/ウエルカムパーティ	
7月13日	試験会場見学	Jury 会議
7月14日	実験試験/折り紙ナイト	エクスカーション (日光)
7月15日	エクスカーション (つくばサイエンスツアー)	Jury 会議
7月16日	理論試験	エクスカーション (つくばサイエンスツアー)
	つくばナイト	
7月17日	エクスカーション (日光)	Jury 会議
7月18日	エクスカーション (つくばサイエンスツアー)	エクスカーション (つくばサイエンスツアー)
	特別講演会/閉会式/フェアウエルパーティ/ダンスパーティ	
7月19日	帰国	

され、大きな感銘を与えました。実験問題や理論問題に関する議論と母国語への翻訳はJuryの先生方に徹夜での作業を求めるもので多大な負担をかけていました。今回は大会前に8名のJuryが参加した事前会議を開き、問題の事前討議を徹底的に行いました。その結果、本大会での問題の討議と翻訳はスムーズに進行することができました。そして実験問題も理論問題も順調に行われました。

最終日には浅島誠先生による講演会「Life Science - present and future (生命科学 - 現在と未来)」が開かれ、そして閉会式で成績発表が行われ、日本選手達は先に述べたような優秀な成績を挙げました。

## 理科離れの現状・問題点・改善の方法

理科離れが叫ばれていますが、つくば市教育委員会の教育長柿沼宜夫先生とお話した時、次のような話をしてくれました。「小学生や中学生は理科にとっても興味を持っていきますよ。夏休みの宿題の自然観察ではとても面白い発表をしています。高学年になり高校入試や大学入試が近づくと試験勉強に時間を取られ、理科好きの能力を発揮するゆとりがなくなってしまうのです。最も効果のある理科離れ対策は大学入試の改善です。理科好きを積極的に取るような仕組みを作ることが大事です。」この話をうかがって、IBOを入試制度に取り込むことで、生物好きの学生を大学に集めることができるのではないかと、理科離れ対策になるのではないかと考えました。幸いなことに筑波大学は5つの国際科学オリンピック、数学、物理、化学、情報、生物に関わる学類でそれぞれ定員5名のオリンピック枠をAC入試枠の中に作りました。初年度の2009年入試では生物に4名、物理に1名の合格者がありました。しかし、まだ十分周知されていないようです。

日本の生物教育を良くするためには良い先生の育成が大切です。私たちは二年半にわたりIBO2009つくばの準備に最善を尽くし、大会は成功裏に終了しました。そして、現在私たちは良き教師の育成に思いを致しております。

# 茗溪学園だより

## 国際教育推進プログラム 「SOSSEP」が始まる

本校創立30周年記念事業の一つ国際教育推進プログラムの短期交換留学「SOSSEP (Study Overseas Student Exchange Programme)」が始まりました。初回となる活動は、7月5日に英国 Colsons School から、エリック・アンダーウッド君とローレン・ディメントさんの2名を迎え、2週間のプログラムを進めていきました。二人は高校1年C組、E組それぞれの学級に入り、国語や古典なども含めすべての授業を体験しました。授業で体験できなかった書道は、放課後に特別レッスンを受けてきました。中学生の英会話の授業（ティームティーチングとなっている）には教師役で参加し、普段以上に活発な英会話が飛び交う楽しい授業にしてくれました。放課後には、高校の英語EECクラス（外国人英語教師による英語で行われるハイレベルの授業クラス）の生徒達が日替わりで案内役をし、部活動を見学したり参加したりしました。エリック君は、英国でもラグビーをしているので、ラグビー部の練習に参加して茗溪でのプレーを楽しんでいました。



他にもつくば市内の散策や東京観光（浅草周辺）などもプログラムとして組み込まれていました。2週間はあつという間に過ぎてしまいましたが、本校生徒も留学生も積極的にコミュニケーションを計り、交流の機会を意欲的に活用している様子を感じられ、大変よい活動になりました。また、ホームステイを4家庭が

1週間ずつお引き受けくださいましたが、それぞれの家庭においても、有意義な交流ができたということでした。

今年度のSOSSEP計画は、来年2月にやはり英国の Christ College から2名を受け入れることになっていきます。本校からは、年明けの1月初旬に4名の生徒がそれぞれの学校に留学いたします。

10月初めに高校一年生を対象に募集し、しっかりとした目的意識を持った生徒を選考します。それから出発までの二ヶ月間で、十分なオリエンテーションや英語指導をし、よりよい体験ができるよう力を高めて送り出す予定です。

この他の国際交流は、9、10月にニュージーランドから中学生、高校生が続けざまにスポーツ交流でやってきます。10月下旬には、英国の高校生が来校します。さまざまな場面で国際交流が展開されますが、これらもよりよい交流となるよう準備を進めているところです。

## 平成22年度 入試日程

	中学校推薦入試		中学校一般入試
	推薦入試	自己推薦入試	
募集数 応募資格	男女80名 5学年の評定および6学年1学期の評価合計がそれぞれ22以上。日本人学校も含む。	男女10名 学習にきちんと取り組み、学術・芸術・スポーツで高く評価される活動。4学年からの3学年分の評定合計60以上。	男女135名
出願	12月2日～4日 郵送必着	11月30日～12月2日 郵送必着	郵送 12月16日～22日 持参 1月7日10～13時
試験日	筆記 12月21日(月) 面接 12月21日(月)	午前 午後	1月10日(日)
試験科目	筆記 国語・算数各50分・各100点 / 面接 本人 (寮生・海外枠は本人と保護者同伴も)		国語・算数・理科・ 社会各50分100点 (寮生・海外枠のみ 本人面接・保護者同伴面接)
合格発表	12月23日(水) 午前11時		1月12日(火) 午前11時

## 平成22年度 生徒募集について

平成22年度の生徒募集要項が、5月25日の茗溪学園理事會において審議承認され、別表の通り決まりました。

中学入試では自己推薦入試を変更しました。日程を推薦入試と同日とし、試験科目を国語、算数の2科目としました。さらに、出願条件として小学校4年から6年前期まで3学年分の評定の合計を60以上としました。

高校入試では海外帰国枠A方式入試（海外現地校・国際校出身生徒対象で試験科目は英語のみ）の日程を、推薦入試と同日にしました。

また、「海外生特別選抜試験」は、香港・上海・バンコク・シンガポール・ロサンゼルス等の5都市で実施しますが、試験日は高校入試が11月21日(土)、中学入試が11月22日(日)です。

今後の入試の広報活動としては、11月7日に学園説明會を予定しています。お知り合いの方にご紹介いただければ幸いです。

	高校推薦入試	高校一般入試	
		帰国枠入試(A方式)	B方式
募集数 応募資格	男女15名 ①9教科の評定平均値が4.2以上などの条件②スポーツ、芸術、学術の活動が高い評価と評定の条件。①②とも日本人学校も含む。③現在海外現地校に在学し英検等の条件。(詳しくは募集要項をご覧ください)	海外枠に該当すること、在留期間に在籍した学校が現地校・国際校であること。	国内の中学校を卒業見込み、または海外枠に該当する日本人校生。
出願	12月14日～17日 郵送必着	12月14日～12月22日、 持参 1月7日10時～13時	1月18日～1月25日
試験日	1月9日(土)	1月9日(土)	1月30日(土)
試験科目	面接 条件②では出願可能かどうかの事前確認必要	英語・面接	英語・国語・数学
合格発表	1月10日(日) 午前11時	1月10日(日) 午前11時	2月2日(火) 午前11時



	支 部 長 (卒年科)	事 務 局 担 当 者	代 議 員
練馬	竹内 秀一 (51教大日史)	事務局長 佐藤 貴樹 (60筑修体) 庶務	竹内 秀一 (51教大日史)
文京	戸谷 賢司 (48教大)	事務局長 甲田 充彦 (43教大) 庶務 城鼻 勇 (47教大) 会計 若井 尚子 (61筑二比)	戸谷 賢司 (48教大) 甲田 充彦 (43教大) 城鼻 勇 (47教大) 若井 尚子 (61筑二比)
港	及川 良一 (52教大倫)	事務局長	光江 徳尚 (50教大) 及川 良一 (52教大倫) 中條 敏明 (53教大農化)
目黒	初見 豊 (52教大農)	事務局長 笹 のぶえ (56筑二比) 庶務 竹内 章 (53筑体)	初見 豊 (52教大農)
北多摩北	進藤 周治 (48教大)	事務局長 榎本 善紀 (50教大) 庶務 緒環 三雄 (47教大) 会計 坂井 秀敏 (55筑修理)	進藤 周治 (48教大) 緒環 三雄 (47教大) 坂井 秀敏 (55筑修理) 榎本 善紀 (50教大)
北多摩南	木嶋 智恵 (49教大)	事務局長 福田 洋一 (61筑一自)	小林 明 (48教大漢)
西多摩	小林三代次 (51教大英)	事務局長 磯村 元信 (54筑体) 庶務 磯村 元信 (54筑体) 会計 磯村 元信 (54筑体)	小林三代次 (51教大英)
八王子	石川恵一郎 (49教大健)	事務局長	石川恵一郎 (49教大健)
町田	池戸 成記 (62筑体)	事務局長 角田 展子 (04筑修教) 庶務 越智 景三 (56筑修教)	池戸 成記 (62筑体)
神奈川	清水 進一 (43教大)	事務局長 矢野 正人 (53院修農経) 庶務 大畑多津雄 (52教大) 会計 南 敏章 (52教大) 齋藤 俊英 (43教大) 矢島 博 (45教大) 大島 恵子 (46教大植) 佐々木悦子 (46教大) 矢野 正人 (53院修農経) 大畑多津雄 (52教大) 南 敏章 (52教大)	鈴木 庸 (22文一) 堀江 澄男 (23理四) 嵐 實 (29教大農化) 小山 和夫 (33教大) 進藤 隆博 (34教大) 尾上 惣一 (35教大) 実方 正 (35教大) 常木己喜雄 (39教大) 京野 勝 (40教大農化) 須山 英治 (40教大日史) 石塚 崇 (41教大)
山梨	奥水 秀志 (50教大木工)	事務局長 長沼 武志 (07筑修教) 庶務 花形 知子 (60筑二比) 会計 池川富美子 (53筑一自)	奥水 秀志 (50教大木工) 三枝 康治 (52教大倫) 堤 マサエ (51院博心)
長野	高橋 康人 (51教大英)	事務局長 林 直史 (54筑二比) 庶務 藤澤 雅道 (01筑二日) 会計 石川 裕之 (62筑修教) 高橋 康人 (51教大英)	高橋 涉 (51院修英) 高野 忠夫 (42教大化) 山口 利幸 (44教大東史) 坂巻 道弘 (45教大健) 佐藤 宏 (46教大生化工)
新潟	永井 成一 (41教大政)	事務局長 熊倉 肇 (59筑体) 庶務 熊倉 肇 (59筑体) 会計 熊倉 肇 (59筑体)	永井 成一 (41教大政) 和法 (52院修化) 高山 俊彦 (51院修健)
富山	横嶋 信生 (48教大)	事務局長 神田 聡 (58筑修教) 庶務 佐伯 宗明 (59筑一社会) 会計 辻本 彰 (01筑一自)	瀬川 寿 (47教大武) 伊東 真 (52教大社) 伊藤 義秋 (52教大哲)
石川	久下 恭功 (49教大)	事務局長 松本 彰 (50教大) 庶務 守田 健雄 (52教大農)	久下 恭功 (49教大) 松本 彰 (50教大)
福井	西川 譲 (51教大武)	事務局長 森中 明自 (57筑芸) 庶務 牧田 誠史 (59筑修教) 会計 木下久仁雄 (55筑一自)	西川 譲 (51教大武)
静岡	栗原 進 (49教大農化)	事務局長 中村 幸広 (50教大) 庶務 後藤 聡一 (58筑修教) 会計 大賀 珠実 (20筑一自) 伊藤 宏 (48院修体) 井野 盛夫 (36教大地鉦)	栗原 進 (49教大農化) 杉本 淳光 (52教大) 梅原 通夫 (52教大) 植田 賢 (49教大) 武井 泰秀 (49教大政)
愛知	大河原皓視 (42教大漢)	事務局長 水野 重夫 (49教大) 庶務 加藤 照信 (57筑修体) 会計 桑山 幸久 (62筑体) 津田 誠 (48教大健) 水野 重夫 (49教大)	大河原皓視 (42教大漢) 佐藤 順彦 (45教大) 村松 常司 (44教大健) 野村 英幸 (61筑体) 藤岡 豊 (49教大健) 林 誉樹 (53教大木工)
岐阜	丹羽 章 (53教大農)	事務局長 居波 裕 (60筑三情) 庶務 岩木 隆義 (60筑一自)	丹羽 章 (53教大農) 柴田 益孝 (48教大武) 山川 清 (49教大農経)

	支 部 長 (卒年科)	事 務 局 担 当 者	代 議 員
滋賀	飯田 稔 (43院修体)	事務局長 豊田 則成 (13筑博体) 庶務 佃 文子 (06筑修体) 会計 若宮 浩二 (61筑修体)	山本 敬三 (47教大武) 北川 晴雄 (48教大) 豊田 則成 (13筑博体)
三重	寺田 卓二 (52院修植)	事務局長 廣田 育男 (04筑修教) 庶務 向井 俊哉 (57筑体) 会計 山北 正也 (03筑一人文)	寺田 卓二 (52院修植) 伊藤 高次 (48教大倫)
京都	塩見 均 (47教大)	事務局長 川合 英之 (56筑体) 庶務 柳 俊二郎 (14筑修体 4修) 会計 奥村 典夫 (61筑修教)	津守 俊一 (42教大) 橋本 知之 (44教大農工) 大館 健司 (57筑修環)
大阪	新堂 庄二 (25研)	事務局長 松本 秀範 (53院修林) 庶務 岡村多加志 (55筑一自) 会計 大橋 一郎 (62筑体) 酒井 義人 (31教大西史) 久下 正和 (47教大)	新堂 庄二 (25研) 佐藤 隆一 (27研) 高橋 庸 (43教大) 生田 正春 (40教大) 岩橋 昭 (36教大) 飯田 邦彦 (38教大)
兵庫	向田 茂 (49教大日史)	事務局長 櫻木 浩二 (56筑体) 庶務 岡本 勇人 (03筑体) 会計 三宅 昭夫 (53筑体) 向田 茂 (49教大日史)	中谷 元紀 (38教大健) 斎藤 興哉 (39教大) 平野 義二 (44教大) 折戸 善信 (45教大)
奈良	松本 武司 (32教大東史)	事務局長 和田 忠則 (54筑一自) 庶務 井上 徳之 (58筑一自) 会計 田中 勤 (63筑体)	藤岡 明 (50教大英) 谷垣 康 (53筑一人文)
和歌山	矢萩 喜孝 (49院修美)	事務局長 米倉 憲治 (45教大) 庶務 川口 勝也 (01筑体) 会計 上野 宏行 (40教大)	矢萩 喜孝 (49院修美)
鳥取	有田 博充 (41教大)	事務局長 小倉 健一 (53筑体) 庶務 山中 洋介 (58筑体) 会計 谷川 賢次 (12筑体)	有田 博充 (41教大)
島根	松本 弘光 (46教大)	事務局長 境 英俊 (59筑修体) 庶務 西村 覚 (01筑修体)	金本 晋也 (37教大日史) 松本 弘光 (46教大)
岡山	平田 信彦 (43教大)	事務局長 黒住 伸吾 (56筑体) 庶務 延原 良明 (57筑体) 会計 植木 透 (03筑三社工)	平田 信彦 (43教大) 浅野 哲郎 (46教大)
広島	山成 宣彦 (40教大)	事務局長 大辻 明 (47教大) 庶務 山下 勝也 (58筑体) 会計 井藤 幹治 (55筑体)	山成 宣彦 (40教大) 児玉 光禎 (42教大) 大辻 明 (47教大)
山口	鍋井 邦久 (38教大)	事務局長 兼行 剛士 (58筑修体) 庶務 内田 忠範 (57筑体) 会計 藤井 功 (57筑体)	鍋井 邦久 (38教大) 皆川 孝志 (34教大専攻)
徳島	木村 潤 (46教大)	事務局長 森 誠一 (05筑修教) 庶務 池淵 茂 (58筑二比) 会計 田北 直樹 (05筑体)	松宮 廣廣 (43教大哲) 木村 潤 (46教大)
香川	三谷 雅樹 (47教大)	事務局長 森 順一 (60筑修体)	堀家 俊一 (51教大健)
愛媛	柳原 一嗣 (51教大)	事務局長 北須賀逸雄 (54筑二比) 庶務 辻岡 英幸 (03筑体) 会計 徳森 久子 (08筑芸)	柳原 一嗣 (51教大) 三好 廣行 (50教大哲)
高知	下坂 速人 (53筑体)	事務局長 清原 泰治 (62筑修体) 庶務 山本 英作 (07筑修地) 会計 野田 智洋 (62筑体)	清原 泰治 (62筑修体)
福岡	吉村 俊治 (47教大)	事務局長 梅田 保人 (54筑体) 庶務 堤 隆広 (63筑体) 会計 目等 聡 (60筑体)	吉村 俊治 (47教大) 亀田 陽一 (51院修東史) 増田 俊明 (51教大武)
佐賀	東島 敏隆 (49教大)	事務局長 松雪 誉 (61筑体) 庶務 松雪 誉 (61筑体) 会計 松雪 誉 (61筑体)	東島 敏隆 (49教大)
長崎	大河内邦昭 (33教大農)	事務局長 小川 譲 (53教大) 庶務 吉田 繁守 (56筑体) 会計 小川 譲 (53教大)	大河内邦昭 (33教大農) 植村 哲人 (58筑二農)
熊本	秀島 史孝 (49教大)	事務局長 城長 眞治 (56筑修体) 庶務 田畑 淳一 (62筑二農) 会計 岩坂 大輔 (08筑二資源)	秀島 史孝 (49教大) 岩瀬 弘一 (63筑修教)
大分	土谷 忠昭 (40教大)	事務局長 栗林 正一 (61筑体)	木許 正生 (27文四) 土谷 忠昭 (40教大)
宮崎	城倉 恒雄 (44教大農経)	事務局長 川井田和人 (53筑体) 庶務 児玉 洋一 (02筑三社工) 会計 茅島 隆司 (13筑一社会)	
鹿児島	船木 輝久 (44教大)	事務局長 鹿倉 貢 (57筑体) 庶務 内倉 昭文 (59筑一人文)	

平成21年度 茗 溪 会 支 部 組 織 表

	支 部 長 (卒年科)	事 務 局 担 当 者	代 議 員
筑波大	柳本 雄次 (49院博特教)	幹 事 野呂 文行 (05筑博心障) 原島 恒夫 (03筑博心障) 会 計 名川 勝 (61筑二人間) 守橋 健二 (58筑博化) 西村 賢寛 (60筑一自)	新井 達郎 (56筑博化) 前川 久男 山海 嘉之 (62筑博工) 仏山 輝美 (03筑修芸) 高橋 秀人 (63筑修理)
桐医会	山口 高史 (55筑医)	事務局長	
附属校	金子 丈夫 (52教大動)	事務局長	金子 丈夫 (52教大動)
図情橋会	森 茜 (40図短特養課)	事務局長 寺沢 白雄 (63図大図情修) 庶 務 大場 高志 (51図短特養課) 会 計 茂出木理子 (60図大図情) 市村 省二 (59図大図情) 茂出木理子 (60図大図情)	森 茜 (40図短特養課) 遠藤 茂樹 (51図短特養課) 寺沢 白雄 (63図大図情修) 大場 高志 (51図短特養課) 柿沼 澄男 (54図短特養課)
北海道	山本 勇 (38教大國)	事務局長 沖野 隼夫 (41教大體) 庶 務 柳澤 聡 (01筑二日) 会 計 柳澤 聡 (01筑二日)	山本 勇 (38教大國) 沖野 隼夫 (41教大體) 山本 宇衛 (41教大英) 大沼 寛 (47教大武)
青森	宮崎 徹 (48教大武)	事務局長 柿崎 紀一 (51教大體) 庶 務 前田 濟 (59筑一自) 会 計 前田 濟 (59筑一自)	宮崎 徹 (48教大武) 下山 晃弘 (35教大體)
岩手	高橋 光彦 (50教大健)	事務局長 清川 義彦 (61筑體) 庶 務 中島 昭博 (58筑體) 会 計 塚田美和子 (08筑體)	高橋 光彦 (50教大健)
宮城	柳 恭一 (46教大體)	事務局長 河岸 敏郎 (49教大武) 庶 務 佐々木 洋 (59筑修環) 会 計 河岸 敏郎 (49教大武)	柳 恭一 (46教大體) 河岸 敏郎 (49教大武) 佐々木 洋 (59筑修環)
秋田	船木 賢咲 (49教大武)	事務局長 和田 央 (59筑修教) 庶 務 羽深美希子 (06筑修教) 会 計 羽深美希子 (06筑修教)	船木 賢咲 (49教大武) 三戸 範之 (61筑修體)
山形	小野 庄士 (51教大植)	事務局長 町田 純司 (03筑二人間) 庶 務 山科 勝 (07筑修教) 会 計 芦野 浩二 (07筑一自)	小野 庄士 (51教大植) 佐藤 平 (52教大教) 奥山 雅信 (55筑體)
福島	鈴木 弘文 (46教大米)	事務局長 末永 仁 (57筑二農) 庶 務 伊藤 淳一 (09筑修教) 会 計 渡邊 幹男 (17筑修教)	鈴木 弘文 (46教大米) 佐治 和則 (49院修化) 鈴木 久重 (46教大応教) 池田 弘一 (46院修體)
茨城	早川 源一 (51教大東史)	事務局長 住谷 博史 (06筑一自) 会 計 川久保典昭 (12筑修教) 額賀 俊光 (54筑一自) 福田 敬一 (58筑一人文) 河原井忠男 (45教大経) 根本 暁 (47教大法政) 角田 英樹 (56筑一社会) 原田 茂樹 (53筑一社会) 大津 康夫 (54筑一社会)	大買 力 (25文一) 奥村 義栄 (30教大國) 鶴巻 勝夫 (35教大教) 北島 瑞男 (39教大教) 高野 惣一 (39教大健) 長谷川訓也 (40教大體) 池田都實康 (40教大日史) 稲葉 節生 (42教大化) 青柳 正美 (44教大健) 村松 輝美 (47教大教)
栃木	柴田 富男 (45教大農)	事務局長 山口 剛 (50教大応教) 庶 務 細野 孝史 (56筑一人文) 会 計 青木 茂実 (59筑一人文)	柴田 富男 (45教大農) 小林 博彦 (35教大地) 豊田 敏盟 (42教大応教) 佐藤 信勝 (43教大體)
群馬	藤倉 新一 (49教大教)	事務局長 鳥居 吉二 (53筑體) 庶 務 手島 直樹 (19筑博教) 会 計 仲谷 佳郎 (62筑修教)	藤倉 新一 (49教大教) 茂木 道弘 (50教大教) 阿部 芳夫 (51教大國)
埼玉	荒井 修二 (25理三)	幹 事 長 細田 幸一 (50教大独) 平野 正美 (54筑二比) 渡辺 和男 (35院修東史) 矢嶋 章司 (35教大體) 加藤 健 (36教大動) 齊藤 勝人 (42教大動) 前島 富雄 (47教大木工)	荒井 修二 (25理三) 相澤 鏡夫 (27理三) 関根 政勝 (32教大農) 高木 宏 (32教大地) 荒井 桂 (33教大東史) 宇津木輝勝 (33教大體) 渡辺修一郎 (34教大漢) 奥谷 多作 (34教大工芸)
千葉	岡野 照 (35教大経)	事務局長 佐藤 幸 (57筑二人間) 庶 務 内藤 秀子 (53筑體) 会 計 都丸 輝信 (62筑體) 福島 義弘 (47教大教) 川名 博志 (46教大教) 嘉村 茂邦 (50教大物) 佐藤 幸 (57筑二人間)	岡野 照 (35教大経) 滝澤 文雄 (52院修體) 山田 順一 (28教大化) 青木 寛 (48教大武) 島田 侑児 (35教大倫) 秋山 尚功 (38教大東史) 曾川 定雄 (39教大日史) 天笠 茂 (53院修教)

	支 部 長 (卒年科)	事 務 局 担 当 者	代 議 員
学芸大	高畑 弘 (46院修教)	事務局長 古田 悦造 (55筑博歴人) 庶 務 中村 康子 (08筑博地球) 会 計 川崎 誠司 (08筑博教)	高畑 弘 (46院修教)
文科省	田中 大士 (55筑二比)	事務局長 鈴木 康志 (56筑修教) 庶 務 吉川 成夫 (53筑一自) 会 計 山下 直 (02筑修教)	田中 大士 (55筑二比)
都庁	鯨岡 廣隆 (57筑體)	事務局長 上村 肇 (55筑一社会) 庶 務 宮本 久也 (55筑一人文) 会 計 江本 敏男 (58筑一自)	鯨岡 廣隆 (57筑體)
足立	増淵 裕康 (50教大英)	事務局長 田原 章孝 (51教大応教) 庶 務 本田 博文 (50教大武)	増淵 裕康 (50教大英)
荒川	井上 芳明 (01筑體)	事務局長	井上 芳明 (01筑體)
板橋	松本 昭博 (50教大東史)	事務局長 稲葉 秀哉 (55筑修教)	
江戸川	奈良 隆 (53筑體)	事務局長	松井 昭夫 (58筑修體)
大田	丸山 正広 (50教大健)	事務局長 佐々木 哲 (06筑修教) 庶 務 鈴木 春子 (52教大國) 会 計 都築 功 (52院修動)	桑原 洋 (51教大英)
葛飾	渡邊 悟 (62筑博農)	事務局長 丸井 正樹 (51院修農化) 庶 務 橋場 直彦 (55筑修體) 会 計 橋場 直彦 (55筑修體)	渡邊 悟 (62筑博農)
北	村松 広英 (57筑一社会)	事務局長 飯島 睦子 (56筑修教) 庶 務 永野みどり (62筑修教) 会 計 村松 広英 (57筑一社会)	村松 広英 (57筑一社会)
江東	浦部 利明 (58筑修教)	事務局長 鈴木 國義 (51院修美) 庶 務 榎本 康司 (58筑一社会) 会 計 山田 美保 (01筑一人文)	浦部 利明 (58筑修教)
品川	三保 和彦 (59筑一自)	事務局長 畷本 孝志 (59筑二生)	三保 和彦 (59筑一自) 畷本 孝志 (59筑二生)
渋谷	岩崎 充益 (45農別)	事務局長 塚原 直人 (63筑修教) 庶 務 木島 克彦 (61筑一自) 会 計 木島 克彦 (61筑一自)	岩崎 充益 (45農別) 塚原 直人 (63筑修教) 木島 克彦 (61筑一自)
新宿	桜井 裕 (49教大法政)	事務局長 高野 一郎 (56筑一社会) 庶 務 浅井 一郎 (55筑一人文) 会 計 高 莉娟 (06筑體) 川井富佐子 (61筑一人文)	桜井 裕 (49教大法政) 高野 一郎 (56筑一社会) 浅井 一郎 (55筑一人文) 高 莉娟 (06筑體) 武田 一 (04筑修體)
杉並	斎藤 義弘 (58筑二農)	事務局長 斎藤 義弘 (58筑二農) 庶 務 高橋 元幸 (53院修農化) 会 計 中村 祐二 (58筑二農)	斎藤 義弘 (58筑二農)
墨田	佐藤 光一 (49教大武)	事務局長 小林 好生 (50教大動) 庶 務 小林 好生 (50教大動) 会 計 林 美奈子 (52教大生)	佐藤 光一 (49教大武)
世田谷	柳 久美子 (50教大體)	事務局長 山中 豊 (53筑一人文) 庶 務 山崎 正己 (50教大武) 会 計 宮田 茂 (51教大國)	柳 久美子 (50教大體) 山中 豊 (53筑一人文)
台東	磯辺 隆之 (57筑體)	事務局長	磯辺 隆之 (57筑體)
千代田	寶槻 広 (48教大教)	事務局長	寶槻 広 (48教大教)
中央	中村 穎司 (35教大國)	事務局長	入江 宏 (33教大倫) 塩入 睦夫 (43教大木工) 中村 穎司 (35教大國)
豊島	島田 悦郎 (48教大健)	事務局長 島田 悦郎 (48教大健) 会 計 島田 悦郎 (48教大健)	島田 悦郎 (48教大健)
中野	谷島 昭 (51教大法政)	事務局長 徳田 安伸 (55筑二農) 庶 務 徳田 安伸 (55筑二農) 会 計 鈴木 信也 (58筑體)	